

史料群番号 7

史料群名	まえかわぜんべえ 前川善兵衛家文書		旧所蔵者	前川家
探訪時住所	岩手県上閉伊郡大槌町			
現在の住所	岩手県上閉伊郡大槌町			
探訪年月	昭和25（1950）年9月			
史料の年代	寛永7（1630）年～大正6（1917）年	史料の 総点数	（約4700点）	
年代の内訳	近世 約2400点/近代 約160点/不明 約2100点	筆写稿本	あり	
既刊行目録	「昭和五十一年三月 水産庁水産資料館所蔵古文書目録（北海道・岩手編） - 水産庁水産資料館・日本常民文化研究所」			

収蔵にいたる経緯

本史料群は昭和25（1950）年に水産庁によって購入され、国有財産となった。現在中央水産研究所図書資料館が所蔵する一括史料群としては、「中塚家文書」（岡山県）と並んで分量が多く、江戸時代の漁業・水産物流通の実態を伝える貴重な史料群である。

史料群の概要

「水産庁水産資料館所蔵古文書目録（北海道・岩手編） - 昭和五十一年三月 水産庁水産資料館・日本常民文化研究所」に本史料群の詳細な解説が付されているので、ここではその内容を略述する。前川家は漁業と貿易で産をなした盛岡藩の御用商人である。その祖は小田原の後北条氏に仕えた清水氏といわれ、初め気仙浦に、後には吉里吉里（きりきり）浦に下って本拠を構えた。初代は甚右衛門、2代目以降は代々善兵衛を名乗った。初代甚右衛門の頃から常陸那珂湊の貿易商白土次郎左衛門と関係を持ち閉伊海岸の海産物の交易を行っていたが、元文の頃（1736年～）より商名を「東屋孫八」と称して、海産物や米・大豆などを江戸

に積み出して富を蓄積した。煎海鼠や干鮑などの長崎俵物の出荷にも従事し、さらに尾去沢銅山の発掘請負人となり、延鉄の出荷にもたずさわるなど、多角的経営を展開した。前川家は盛岡藩に多額の融資を行い、代わりに十分の一税を永代免除され、「御免石船」として交易にあたった。

前川家は船頭、水主を多く従えていたが、そのほとんどが永代水主である。こうした永代水主を中心とした漁業経営を考察するためにも好史料といえる。（大槌町漁業史）

